

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
YIC京都ビューティ専門学校	平成21年12月2日	杉山 征人	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4100																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人京都中央学院	平成19年1月22日	井本 浩二	〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4040																							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																					
衛生	衛生専門課程	美容科		平成22年文部科学省 告示第152号	-																					
学科の目的	<p>専門知識・技術を教授するだけでなく、技術教育を通じての人間教育を行うことにより、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かな美容業界のスペシャリストの養成を目的とする(教育理念)。</p> <p>具体的には、即戦力ではなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、変わらずに人を癒すことのできる資質を備え、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物を教養育てることを目的とする。</p> <p>真のビューティフルライフは、単なる外見の美しさだけではなく、知性・感性・人間性・誠実さ・自信など肉体・精神が健康であることから成り立つものと考え、本校が目指す美容分野のスペシャリストは美容師であることをベースにヘアメイクスト、スタイリスト、メイクスト、ネイリストといった髪・顔・装いのそれぞれの分野を深く極めたスペシャリストであるとともに、一人の人間をトータルにとらえ、総合的な美を演出できることを目指す。将来は、美容業界の指導的立場やリーダーとなることを期待している。</p>																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																				
2年	昼間	2,040時間	690時間	〇〇時間	1,350時間	〇〇時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
160人	80人	0人	3人	10人	13人																					
学期制度	■1学期：4月1日～9月30日 ■2学期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 出席率80%以上、ペーパーテスト及び実技 成績：優(100-90) 良(89-70) 可(69-60) 不可(59-0)																						
長期休み	■学年始：4月1日～4月10日 ■夏季：7月25日～8月31日 ■冬季：12月23日～1月10日 ■学年末：3月10日～3月31日		卒業・進級条件	出席率：80%以上 成績：60点以上(100点満点) 学費の完納																						
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。		課外活動	■課外活動の種類 学園祭実行委員、京専各体育大会等への参加(バレーボール、卓球等)ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動：有																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 美容サロン ■就職指導内容 担任とキャリアサポート室スタッフを中心に、就職ガイダンス(自己分析、企業研究、プレゼンテーション)や個人面談、企業訪問、企業説明会を実施し、希望する企業への就職をバックアップする。 ■卒業業者数 23 人 ■就職希望者数 22 人 ■就職者数 22 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 95.6 % ■その他 ・進学者数： 1人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美容師国家資格</td> <td>②</td> <td>23人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>メイクアップ技術検</td> <td>③</td> <td>23人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>ネイリスト検定3級</td> <td>③</td> <td>23人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定</td> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	美容師国家資格	②	23人	23人	メイクアップ技術検	③	23人	23人	ネイリスト検定3級	③	23人	20人	ビジネス能力検定	③		
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
美容師国家資格	②	23人	23人																							
メイクアップ技術検	③	23人	23人																							
ネイリスト検定3級	③	23人	20人																							
ビジネス能力検定	③																									
中途退学の現状	■中途退学者 0名 ■中退率 0% 平成28年4月1日時点において、在学者59名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者59名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の原因 ■中退防止・中退者支援のための取組 QU(Questionnaire Utilities)により、学生の学校生活での満足度と意欲、クラス集団の状態を把握し、学生の不適応感について、問題行動として現れる前に発見し対策を立てている。出席不足や授業についていけない学生には補講や再試験等を行う。心の問題に対する個人々への対応は、CTIパーソナリティ診断を利用し、担任、キャリアカウンセラー、臨床心理士が協同し、開発的、予防的、治療的カウンセリングが行える体制としている。																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費¥よりS、学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・経済的支援制度(専願出願者で経済的事由(生活保護受給世帯等)により学費減免を希望する者。最大10名 初年度学費より20万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学生または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者)h太子初年度学費より5万円免除 ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業&見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除) ・特別就学支援(本校に入学する全ての者に対し、初年度学費を20万円免除) ■専門実践教育訓練給付：給付対象 ・前年度の給付実績者数：なし																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無																									
当該学科のホームページURL	URL: http://www.yic-kyoto.ac.jp/beauty/																									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

・教育目的に沿った教育課程編成、教育水準とする。具体的には、業界・社会の要請を的確に把握し、職業に必要な実践的・専門的な能力を育成するため、企業と密接な連絡をとりつつ、本校が設定した卒業生の技術レベル、および人間力の醸成に注力する。

・講義・授業の計画(シラバス)は、本校の教育の基幹をなすものであり、本校の教育理念に沿って教育を行い地域社会、学生、保護者に対して、本校が社会に送り出す学生の質を規定(保障)するものであると位置づける。

必修科目	専門科目	・卒業生が必ず修得していなければならない科目 ・基本共通科目	座学・実技
	人間力		キャリア科目
選択必修科目		卒業生が修得していなければならない科目 専攻によりより深く学ぶことができる	学生自身が 自分の将来に向けて 選択
選択必修科目		卒業生が修得することが望ましい科目	

・教育課程科目は、毎年度毎に見直し、新設、廃止、改訂、改正を行う。これらの結果は、教育課程編成委員会における企業側の科目の指導・助言に基づき必要に応じて内容の修正、変更・追加を行う。

・入学時の基礎学力不足、および学力差の中で効率的・効果的な授業を行うため、必要に応じ、上記科目とは別に、入学前授業、基礎学力対策特別授業を行う。

・人間力、とくにコミュニケーション力、接客技術、その他職業人として必要な働く意欲を高めるための学習は、キャリア科目だけでなくあらゆる行事を含めた学校生活の中で醸成するものである。

・斯界のスペシャリストによる職業人講話、技術指導、ボランティア活動、インターンシップ、就業体験その他地域社会・業界との関連により学ぶことの意義と学習意欲の向上につなげる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。

・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。

・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年 4月 1日現在

名前	所属	任期	種別
田中 元子	日本マナーマイスター学会 理事 (株式会社京織 代表取締役社長)	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	②
藤本 圭哉	株式会社ガモウ関西 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
藤本 豊士	レーコ美容室株式会社 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
松下 哲也	資生堂プロフェッショナルカビ株式会社 営業部 広域統括部 6グループ 部長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
越前 多恵子	ワタベウエディング株式会社 アニバーサリーサロン 課長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	③
杉山 征人	YIC京都ビューティ専門学校 校長		
細田 元一	YIC京都ビューティ専門学校 副校長		
田澤 初美	YIC京都ビューティ専門学校 教務課長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数 2回

(開催日時)

第1回 平成29年5月19日 15:30～17:00

第2回 平成29年11月6日 13:30～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・授業の中に学生が本当にやりたい事を反映させてはどうか。
コンテストへの出場種目を増加させ、学生の希望により沿った形とした。
- ・学生が運営企画、アテンド、広報、報告まで実施するイベントを企画してはどうか。
今年度の9月、12月に学生にショーを実施予定。学生のみでのイベント開催を目指したいが、今年度は教員が誘導として参加する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

国家資格である美容師資格習得に必要な教育科目は美容師養成施設指定規則で定められており、資格取得のために全員が習得しなければならない基礎的・汎用的技術であり必須科目と位置付ける。一方、美容分野の職業に必要な実践的な能力は、業界の最新技術、現場の技術者による実践的技術、業界の動向等、企業等との密接な連携が必須であり、職業教育の質が確保できるとして、選択必須科目および選択科目と位置付ける。

後者の科目については、地域社会で美容業界を主導する20社以上のサロンをネットワークサロンとして組織し、連携することにより、美容業界が求める知識・技能・実務を的確に反映した教育体制としている。ネットワークサロン以外の美容業界のみならず、ビューティ分野の企業、理美容組合、メイク、ネイル、ブライダル、アロマ、マナー等専門分野の学協会とも連携する。

連携の効果をより確かなものとするため、本校と企業、学協会が相互に基本方針を確認し、連携の協定書を結ぶ。具体的な実習・演習計画、授業方法、学修成果の評価、講師(担当者)、等については連携の協定書締結時に確認する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

・企業等と協定書を締結し、連携授業としてカットⅡやカラー特論の授業や、校外(実務研修)でのインターンシップを行っている。学習内容、評価などは期初に当該企業等との打ち合わせにより決定したシラバスに沿って行っている。

・インターンシップは学校とインターン生受け入れ企業と個別に覚書を結び、学生のレポート⇒企業側のコメント⇒学校のコメント・評価⇒学生へのフィードバックにより学修成果を評価し、その結果を企業に報告することにより、科目の成果、改善・改革を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
カットⅠ	カットの応用を学ぶ。直接スタイリストの方からカットを指導してもらい、専門的に技術・理論を学習。	株式会社YAYOI BRAINS
カラーⅠ	カラーリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る	株式会社YAYOI BRAINS
ヘッドスパ	頭皮理論、ヘッド・スパ技法の習得、及びコンサルテーション能力向上を目指す	資生堂プロフェッショナル株式会社
ネイルⅠ・Ⅱ・Ⅲ	ジェルネイル技能と知識の基礎を習得する。またJNECネイリスト技能検定試験2級を目指し即戦力となる技術を身につける	株式会社ガモウ関西
ヘアメイクⅠ(ブライダル)	ブライダルにおけるなどの基礎知識や技術を習得する。また、即戦力として活用できる着付とブライダル業界の実務を学ぶ。	株式会社K&F

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を持ち、社会に対し柔軟に対応できる人材を教え育てるためには、教員自身が常に研鑽を行い、美容分野の技術・知識を深化させるとともに指導力の向上、企業等との連携による研修等を通して時代に即応した実務能力(知識・技術・技能)の習得・向上に努めなければならない。

校内外の研修については、年度計画に基づき学校が学習機会の提供等を行い、また自己申告により日程、費用等便宜を図る。特に授業力、担任力、等の指導力の向上についてはYICグループの人材育成計画に基づく教職員研修規程によりグループ内、校外で計画研修を実施する。また、職業教育・キャリア教育財団、全国専門学校経営研究会、京都府各種学校・各種専門学校協会(京専各)等が実施する研修にも積極的に参加させる。

美容分野の時代に即した実務能力については、企業等が主催・実施する研修会への他、関係企業との連携や教育課程編成委員会等の意見を反映し、個別企業に教員研修を依頼、また資格取得などを奨励する。

②指導力の修得・向上のための研修等

京都府教育相談研修会、キャリア・サポーター養成講座（CSM講座）、キャリア教育の考え方と進め方の研修会、YIC京都グループ新任教員研修、接遇&マナー研修会

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

ヘアメイクライブ見学研修会、メイク特別授業教員研修会、全国理容師美容師研修大会、ショーメイク・ヘアブラシ教員研修会、まつ毛エクステ研修会、カット・カラー教員研修会、近畿地区理容師美容師研修

②指導力の修得・向上のための研修等

YIC京都グループ新任教員研修、YIC京都教職員研修会 I、私学カウンセリング研修会、京都府教育相談研修会、インストラクションデザイン研修、アドラー心理学の活用による退学者防止・学級経営術、やる気の根っこ活用講座、中堅教員学級経営QU活用研修、キャリア・サポーター養成講座（CSM講座）、アクティブラーニング型授業研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2)学校運営	7 管理運営 9 改革・改善
(3)教育活動	2 教育の内容
(4)学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
(5)学生支援	5 学生支援
(6)教育環境	3 教育の実施体制
(7)学生の受入れ募集	5 学生支援
(8)財務	8 財務
(9)法令等の遵守	7 管理運営
(10)社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- ・非常勤講師はどの程度授業態度に対して指導しているのか、また指導基準が存在するのかどうか。
授業評価でのフィードバックシステムは存在するが、PDCAを確実に回すことが29年度の課題である。
- ・卒業への支援がどの程度機能しているのか。OB、OGとの繋がりをしっかりとした方が良いのではないかと。
同窓会は存在するが十分に機能はしていない。現状では卒業生の動向調査にとどまっている。今後は企業と連携した卒業後の研修も踏まえて検討する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年 4月 1日現在

名前	所属	任期	種別
田中 元子	日本マナーマイスター学会 理事 (株式会社京織 代表取締役社長)	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	学会
藤本 圭哉	株式会社ガモウ関西 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
藤本 豊士	レーコ美容室株式会社 代表取締役社長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
助川 春彦	資生堂プロフェッショナル株式会社 広域統括部 課長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
越前 多恵子	ワタベウエディング株式会社 アニバーサリーサロン 課長	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	企業
福山 正樹	レーコ美容室株式会社	平成29年4月1日～ 平成31年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.yic-kyoto.ac.jp/beauty/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科(コース)等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・就学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校の評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.yic-kyoto.ac.jp/beauty/>

授業科目等の概要

(衛生専門課程美容科) 平成29年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			美容保健Ⅰ	二年間、計60回(120時間)のうち前半(人体の構造および機能)である。国家試験は最重要であるが、美容師になるための必要知識、技能、態度の取得、論理的思考、合理的な処理能力社会に対する適応力など職業人教育の観点から授業を進める。また、理解しやすいよう、適宜視聴覚教材を利用する。	1前	30	1	○			○					
○			美容保健Ⅱ	二年間、計60回(120時間)のうち前半(人体の構造および機能)である。国家試験は最重要であるが、美容師になるための必要知識、技能、態度の取得、論理的思考、合理的な処理能力社会に対する適応力など職業人教育の観点から授業を進める。また、理解しやすいよう、適宜視聴覚教材を利用する。	1後	30	1	○			○					
○			美容保健Ⅲ	二年間、計60回(120時間)のうち前半(人体の構造および機能)である。国家試験は最重要であるが、美容師になるための必要知識、技能、態度の取得、論理的思考、合理的な処理能力社会に対する適応力など職業人教育の観点から授業を進める。また、理解しやすいよう、適宜視聴覚教材を利用する。	2前	30	1	○			○					
○			美容保健Ⅳ	二年間、計60回(120時間)のうち前半(人体の構造および機能)である。国家試験は最重要であるが、美容師になるための必要知識、技能、態度の取得、論理的思考、合理的な処理能力社会に対する適応力など職業人教育の観点から授業を進める。また、理解しやすいよう、適宜視聴覚教材を利用する。	2後	30	1	○			○					
○			衛生管理Ⅰ	公衆衛生の意義、予防衛生、保健衛生、環境衛生、特に美容業務上で必要不可欠な衛生知識などについてテキストに沿って教授すると共に、その時点における社会の動きなどについても教授する。	1後	30	1	○			○					
○			衛生管理Ⅱ	美容師になる上で必要な感染症の知識を学習する。	2前	30	1	○			○					
○			衛生管理Ⅲ	消毒法を知り、理学的消毒法、化学的消毒法の特徴を学ぶ。消毒薬の種類と濃度計算式を理解する。清潔保持と清掃の意義を知る。	2後	30	1	○			○					
○			美容の物理・化学Ⅰ	実学としての化粧品化学を、可能な限り高校程度の物理化学で理解できるように授業を進める。また、「関係法規・制度」、「衛生管理」、「美容・美容保健」など、他教科との関連性についても適宜述べる。	1後	30	1	○			○					
○			美容の物理・化学Ⅱ	実学としての化粧品化学を、可能な限り高校程度の物理化学で理解できるように授業を進める。また、「関係法規・制度」、「衛生管理」、「美容・美容保健」など、他教科との関連性についても適宜述べる。	2前	30	1	○			○					

○		美容の物理・化学Ⅲ	実学としての香粧品化学を、可能な限り高校程度の物理化学で理解できるように授業を進める。また、「関係法規・制度」、「衛生管理」、「理容・美容保健」など、他教科との関連性についても適宜述べる。	2後	30	1	○												
○		美容実習(ネイル)	ネイル基礎知識・ネイルケア・カラーリング・検定アート・検定3級対策	1前	90	3						○	○						
○		美容実習(メイク)	クレンジング～ベースメイク作成、ポイントメイクの楽しさを知る	1前	60	2						○	○						
○		美容実習(ヘアアレンジ)	様々な基本的セッティング技法を学ぶ	1前	30	1						○	○						
○		美容実習(着付け)	着付けの理論と技術の修得	1後	30	1						○	○						
○		美容実習(シャンプー)	美容室就職後に必須となるシャンプー技術の習得・時間に対する質を意識する。美容師の社会責任・職業倫理への理解を深める。	1前	30	1						○	○						
○		美容実習(カット)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る	1前	30	1						○	○						
○		美容実習(カラー)	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る	1前	30	1						○	○						
○		美容運営管理1	専門的な技術・理論を学び就職に役立てる	1後	30	1	○						○						
○		美容運営管理2	美容をビジネスの観点から見ていく。サロン経営、店舗運営に直結する内容を講義するとともに、最新の美容業界の動きもつねにチェックする。	2前	30	1	○						○						
○		ビューティコーディネーター	ビューティコーディネーターとして、社会人として必要な資質を磨く	2前	30	1	○						○						
○		関係法規・制度	美容師法などの美容師の業務に関する衛生法規や制度、消費者の保護法規や制度、また、公衆衛生を担う美容師の社会責務、職業倫理について勉強する。	2後	30	1	○						○						
○		美容文化論Ⅰ	美容の歴史を学び、現代でどのように活かされているのかを知る	1前	30	1	○						○						
○		美容文化論Ⅱ	具体的な観察方法及び必要な概念を学び、表現の基本を修得する。	1後	30	1	○					○	○						

○		美容文化論Ⅲ	ファッションはそれが独立して存在するのではなく、時代の背景・他デザインやクリエイティブ業界と共に歩んできたことを、広く歴史の知識を織り込みながら講義する。	2前	30	1	○	○	○										
○		美容技術理論Ⅰ	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく	1前	30	1	○			○									
○		美容技術理論Ⅱ	美容師としての心構え、美容技術の基礎理論を学ぶ事によって、美容技術の理解を高め、美容実習につなげていく	1後	30	1	○				○								
○		美容技術理論Ⅲ	国家試験課題を学習し理解することによって、実技課題の習得を容易にする。美容技術理論Ⅰ・Ⅱで学んだ事を土台として、さらにトータル的に美容について修得していく。	2前	30	1	○					○							
○		美容技術理論Ⅳ	国家試験課題を学習し理解することによって、実技課題の習得を容易にする。美容技術理論Ⅰ・Ⅱで学んだ事を土台として、さらにトータル的に美容について修得していく。	2後	30	1	○					○							
○		美容実習 (ワインディングⅠ)	ワインディング	1前	150	5						○	○						
○		美容実習 (ワインディングⅡ)	ワインディング (国家課題Ⅰ)	2前	90	3						○	○						
○		美容実習 (ウェーブⅠ)	ヘアセットイング	1後	210	7						○	○						
○		美容実習 (ウェーブⅡ)	ヘアセットイング (国家試験第2課題)	2前	60	2						○	○						
○		美容総合技術	国家試験5科目に於ける対策授業	2後	60	2	○	△				○							
○		美容技術特論Ⅰ	期末試験・国家試験・コンテストに向けて、ウェーブ、ワインディングの強化	2前	60	2						○	○						
○		美容技術特論Ⅱ	国家試験で定められた課題を作成し、合格レベルまで反復演習を行い資格取得をする。	2後	300	10						○	○						
○		色彩学	日常生活に切り離せない「色」について、歴史的側面から、感覚的な視覚効果、また、その人の本来持っている魅力を最大限に引き出すことができることで、よりお客様に説得力ある提案をできるようにするための色のしくみを「パーソナルカラー」という切り口から学んでいく。	1後	30	1	○						○						
○		カットⅠ	スタイリストとしてサロンワークに直結した内容を学び、美容師としての奥深さを知る	1後	30	1						○	○						○

		○	プレゼンテーション	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかり相手に伝える積極的な意思表示ができるようになる。	1前	30	1	△	○	○								
		○	ビジネス文章力	<ul style="list-style-type: none"> 講義形式・グループワーク・調べ学習・発表を授業で取り入れる 必要に応じて視聴覚教材使用 美しい字を書く事を授業内で実施 適宜課題提出 	2前	30	1	○	△	○								
		○	論理的思考力基礎	日常生活に関する題材を取り上げ、確かな読解力・適切な翻訳の仕方、正確な遂行力を養い論理的思考の面白さ、痛快さを実感する。	2前	30	1	△	○	○								
		○	ビジネス英語	本講義では、おもにサロンでの対応についていろいろな場面での会話を学んでいく。授業は簡単な会話を中心とし、ビューティ分野に必要な表現、用語を併せて学ぶ	1前	30	1	△	○	○								
		○	インターンシップ	実際のサロン勤務を体験(研修)し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付けるとともに就職に繋げる。	1 2	30	1			○	○							
		○	イベントプロデュース	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力を養う。	2後	30	1			○	○							
		○	企業研究	現役美容師の講話を中心に、グループワーク、ディスカッション形式を取り入れた授業	1 2	30	1				○		△	△				
		○	ボランティア活動	ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を学習した後に、学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する。	1 2	30	1			○	○							
合計					59科目			2,820単位時間(94単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目48単位(1,440時間)および選択必須科目及び選択科目合わせて20単位(600時間)以上 計68単位(2,040時間)以上の履修	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。